

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A	1B	二子玉川～荻田	3A	3B	長津田～鶴間	5A	5B	厚木～愛甲	7A	7B
三軒茶屋～二子玉川	2A	2B	荻田～長津田	4A	4B	鶴間～厚木	6A	6B	愛甲～大山	8A	8B



2. 三軒茶屋から二子玉川まで

三軒茶屋から用賀に向かう大山街道は二本あります。右に向かう道が古く、この道はボロ市で有名な上町の世田谷代官屋敷前を通り、弦巻の追分では左の道へ。ここでは、かつて「左大山道、右登戸道」と道標が建っていました。その先、途中で大山道旅人の像や野中の地蔵を眺め、真っ直ぐな道が用賀に通じています。

三軒茶屋から左の道を行くと、今も左側に旧道が一部残っております。この道は緩い上り坂をあがった所で本道に戻り、大山街道は環状七号線を越えて西に。駒沢の先から瀬田交差点に向かって一直線の新道が昭和30年代に開通していますが、大山街道は右に蛇行して桜新町を過ぎ、用賀の坂を下った所で上町から来た旧道と合流します。ここにあった道標は「右、江戸道、左、世田谷、四谷道」となっていました。大山街道は更に西へ、首都高速3号線の下、田中橋で谷沢川を渡り、しばらく行くと安永6年(1777)に建てられたお地蔵さん、道は又、ここで二本に分かれます。どちらの道も環状八号線を横断歩道で渡らなければなりません、右の道は急な慈眼寺坂を下り、左の道は稍ゆるやかな行善寺坂を下ります。丸子川(治大夫堀)を渡っていよいよ多摩川の河原。かつてここに二子の渡しがありました。大正から昭和の初期、清遊の地であった二子玉川は今、大ショッピングゾーンへと姿を変えつつあります。

世田谷のボロ市



世田谷のボロ市は天正6年(1578)小田原の北条氏政が世田谷新宿に楽市(六斎市)を許可した事から始まりました。代官屋敷の大山道の歳の市は正月を迎える前の当地方の年中行事となった様ですが、明治を迎え、12月と1月の2回開かれる事になりました。正月用品や農具の他、古着の店も多くなって、明治時代中頃になると人々はこの市を「ボロ市」と呼ぶようになり、今も賑わいを見せています。

1 三軒茶屋



江戸時代、大山街道が世田谷上町の方へ向かう登戸道と、二子の渡しへ向かう二子道とに分かれる三叉路に三軒の茶屋があった。田中屋、信楽(後に石橋楼)、角屋で、大山詣での旅人にとって、ちょうど良い一服の場所であった。

2 大山道道標



寛延2年(1749)建立、文化9年(1812)に再建されたと思われる不動尊の道標で正面に、「左相州通大山道、」側面に「右富士、登戸、世田谷通」「此方二子通」と云う字が刻んである。かつて玉川電車もここで分岐、左路線は二子玉川へ、右路線は下高井戸まで行っていたが、昭和44年(1969)玉川線は廃止となり、今は三軒茶屋～下高井戸間が世田谷線として運行している。

3 駒留八幡神社



鎌倉時代後期、徳治3年(1308)この辺りの領主北条左近太郎入道成願により創建されたと云われる。戦国時代、世田谷城七代目城主吉良頼康が側室「常磐姫」の胎内にいた子を追福の為、若宮八幡を祀ったとの伝説も残っている。

4 世田谷代官屋敷



江戸時代、彦根藩世田谷領の代官を代々務めていた大場家住宅で、昭和27年東京都の史跡に、昭和53年、主屋と表門が国の重要文化財に指定された。また敷地内には、昭和39年世田谷区の郷土資料館が建設され、毎年、12月と1月各15、16日の2日間、門前の通りは有名な“ボロ市”で賑わう。

5 大山道旅人の像



かつて蛇崩川の源流が流れていた所。昭和60年3月、大山道児童遊園が解説された時、この旅人像が建てられた。また、ここを横切る道は平成8年東京都が定めた「歴史と文化の散歩道」世田谷コース。

11 旧大山道(中里通り)



世田谷区内に残る貴重な大山道の一つ。道沿いに伊勢丸稲荷神社や貞享3年(1686)の庚申塔、正保2年(1645)の地藏尊がひっそりと立っている。

12 宗円寺



鎌倉時代後期、北条左近太郎入道成願が開基したと伝えられ、駒留八幡神社別当寺、曹洞宗に属し八幡山と号す。境内に疫病除け「しょうづかの御婆様」の小堂や区内で最も古いと云われる明暦4年(1658)の庚申塔がある。

13 善養院



元和2年(1616)大庭豊前守義隆が開基、豪徳寺の末寺。万延元年(1860)、明治5年(1872)と二回、火事で全焼、明治17年(1884)再建された。曹洞宗のお寺、本尊は如意輪観世音。